



- ①仙寿院で芝崎住職の講話に耳を傾ける学生ら
- ②宿泊先から走って高台まで避難する学生ら
- ③祈りのパークで東日本大震災の犠牲者に祈りを捧げる学生ら
- ④岩手大学釜石キャンパスの学生が主催した「おさかなフェス」でタッチプールを体験する学生ら



# 釜石市 × ミネルバ大学

# 共に学び 未来を創る地域に

当市では、ミネルバ大との共創を続けるとともに、国内外の企業や大学に学びの場として選ばれ、新たなつながりを育めるよう取り組んでいます。

今回の交流では地元の学生たちとの交流も行われ、8日には、震災の伝承や防災活動に取り組む釜石高校の有志グループ「夢団」に所属する釜石高校2年の高橋美羽さんがミニエルバ大の学生らと防災に関する意見交換を行いました。9日には「おさかなフェス」を企画した岩手大学釜石キャンパスの学生らと学生同士で活発な意見交換も行われるなど、国を越えて同世代の交流が図られました。

9日は、釜石の復興に向けた考え方や過程を学ぶ講話とまち歩きを通して復興後のまちづくりを学ぶプログラムに参加。また、夜には三陸冲で発生した地震の影響により津波注意報が発令され、学生らは奇しくも学んだプログラムを実践する事態になりました。

フィールドワーク全体を通じて学生からは次々と質問が飛び交い、災害から復興までのまちづくりや防災害を積極的に学ぶ姿勢が見られました。また、出される質問内容も、湾口防波堤の具体的な設置手法や被災時補償内容など、当事者として捉えた質問が目立ちました。

11月8日～10日の3日間、米ミネルバ大の2年生48人が当市を訪れ「災害復興と防災」をテーマにフィールドワークを行いました。

市は、まち全体を学びの場とする「釜石オーパン・フィールド・カリツジ」を推進しており、さまざまな学びの場を創出することで、市の未来を担う人材の育成や交流人口の拡大を目指しています。このフィールドワークもその一環として当市が同大学と本年10月に締結した包括連携協定に基づき行われたものです。

8日、学生らは、宿泊先のホテルから近くの津波避難場所である仙寿院への避難を体験。その後仙寿院の住職である芝崎惠應さんが東日本大震災発災当時のビデオとともに講話を进行了。芝崎住職からは「歩いて坂を上る学生がいたが、のんびり

## 釜石の学生から



海洋環境の変化に伴い、釜石で取れる魚が変化していることを伝えました。説明を聞くだけでなく、タッチプールで見て・触って・知ってもらえたのが良かったです。

元々防災に興味があるわけではなかったですが、夢団の活動を知り、自分もやらなきゃという思いで、活動を始めました。

日本で自然災害が多く起きて  
いる中で、海外の人たちにも高校  
生が立ち上がって活動しているこ  
とを知ってもらえて良かったです。

## ミネルバ大学の学生から



ミネルバ大2年 ジョージア出身  
リザ・サダテラシュヴィリさん

釜石で得たことは「未来への希望」です。ジョージアでも2年ほど前に土砂崩れが起き、友人を亡くしました。自然災害が愛する人を奪う可能性があることを身をもって知りました。釜石の人は、大規模な自然災害に遭っても、それを理由に諦めたりしない。この地を深く愛し、住み続け、大きな希望を抱き、コミュニティー全体がより良い未来に向かって取り組んでいます。特に高校生など若い人たちが大きなイニシアチブを取っていることに感動しました。この事実は私に未来への希望、そしてジョージアをより良くする可能性への希望を与えてくれるものです。